

<人総研研究プロジェクト紹介>



Advanced Research Center
for Human Sciences
早稲田大学 人間総合研究センター

◆研究テーマ・内容

現代哲学のアウトリーチに関する実践的総合研究

本研究は2016年度～2018年度の三年間において、以下のプロジェクトを推進すべく開始された。

1) 「現代哲学ラボ」の継続的開催

現代哲学ラボは一般市民に開放された最先端の哲学の議論の場である。早稲田大学戸山キャンパスにて2回の講演会が開催された。その成果の第一弾が入不二基義・森岡正博『運命論を哲学する』（明石書店、2019年）として刊行された。その過程で早稲田超域哲学研究会というクローズドの学際研究会を立ち上げ、15回の研究会を開催した。さらに英語で先端の哲学について議論する Tokyo Philosophy Project を立ち上げ、これまで4回の研究会を開催した。

2) Journal of Philosophy of Life を拠点とした国際ネットワークの構築

国際学術誌 Journal of Philosophy of Life を刊行し、世界からの投稿を受け付け、厳正な審査のもとにオープンアクセスで刊行した。刊行論文は早稲田大学リポジトリで公開している。2017年には、「Special Issue: Nihilism and the Meaning of Life: A Philosophical Dialogue with James Tartaglia」と題する特集を組んで電子書籍を刊行した。本研究から派生的に国際会議「First International Conference on Philosophy and Meaning in Life」を2018年に北海道大学で開催することとなった。第2回は2019年に早稲田大学で行なわれる。

3) 『現代生命哲学研究』を拠点とした国内若手研究者の育成および生命哲学研究の進展

日本語での学術誌『現代生命哲学研究』を継続的に刊行した。著者たちはいずれも若手研究者である。

4) 「高校生のための現代哲学ラボ」の展開

高校生を対象に、2回の哲学対話を行なった。

5) 医療福祉分野への展開

高齢者介護およびハンセン病患者を対象とする調査研究を行ない、国際学術誌等に発表した。

*

以上の研究を予定通り行なうことができた。（2019年5月記）

◆担当教員：森岡 正博 教授

<主な著書>

『完全版 宗教なき時代を生きるために——オウム事件と「生きる意味」』（法藏館）、『まんが 哲学入門』（講談社現代新書）、『無痛文明論』（トランスビュー）、『完全版 感じない男』（ちくま文庫）、『生命学に何ができるか』（勁草書房）など。

<社会的活動>

Tokyo Philosophy Project 代表。新聞記事、テレビ出演多数。